

愛&ハート

2024年新春のごあいさつ

2024 January

268号

◆社会福祉法人全電通近畿社会福祉事業団 理事長

◆愛の家 施設長 ◆あいハート須磨 施設長 ◆あいハート離宮前 施設長

[愛の家]

- ◆きぼう
- ◆かがやき
- ◆工房みさき
- ◆グループホーム
- ◆みらい

[あいハート須磨]

- ◆特養・短期入所
- ◆デイサービス
- ◆居宅介護支援事業
- ◆あんしんすこやかセンター
- ◆厨房
- ◆脳梗塞リハビリステーション
神戸須磨

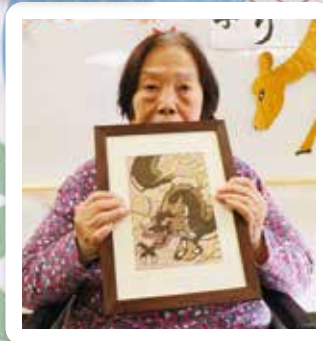
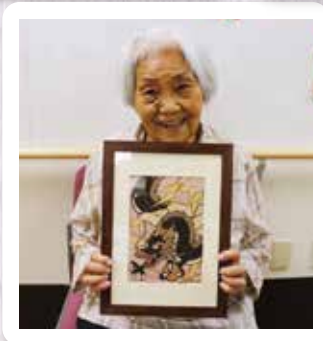
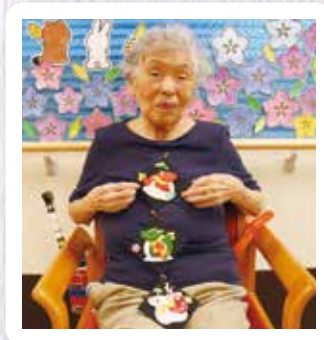
[あいハート離宮前]



愛の家
利用者さんの作品



あいハート須磨
利用者さんの作品





社会福祉法人
全電通近畿社会福祉事業団
理事長

橋本 寿樹



ました。また、御下
賜金(天皇陛下の社
会福祉事業奨励の
ために、優良な民間
社会福祉事業団体

共に生き、 支えあう社会を

新年あけましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、お健やかに
新年をお迎えのこととお慶び申し上げ
ます。

日頃の当法人に対するご支援・ご協
力を賜り厚く御礼申し上げます。

当法人は設立(1971年)から、世
の中のニーズに応じて様々な施設を展
開するとともに、変化する社会情勢の
中で、地域、社会から必要とされ、信頼
される法人を目指しています。そのよ
うな中で、昨年は、契約満了を迎える
「特別養護老人ホームあいハート須磨」
の敷地契約について、関係各位の御理
解・御協力により新たな契約を結ぶこ
とができました。設立から10周年を迎
えた「介護付有料老人ホームあいハ
ート離宮前」につきましては、週刊ダイヤ
モンドの「有料老人ホームランキング・
ベスト1000施設」の特集において、全
国的な事業者や大規模な施設等が多く
ある中で、兵庫県で第4位に選出され

に対して金封が下賜されるもの)の拜
受施設として、「知的障害者総合福祉
施設愛の家 障害児入所施設きぼう」
が選出されました。

経営面においては、皆様方に多大な
ご協力をいただいたあいハート須磨の
増床効果に加え、愛の家の稼働率が高
水準であったこと、あいハート離宮前
ご入居者の入れ替わりが例年よりも多
かったこと等により、サービス活動収益
は大幅に増加しました。中間期決算で
は、各施設とも概ね順調に推移をして
いるところです。年度末に向けて、引き
続き新型コロナウイルスへの対応、人材
の確保・育成等、課題は山積していま
すが、一歩ずつ着実に前進して、事業計
画達成に向けて取り組んでいきます。
今後も安定した経営基盤を確立する
とともに、地域福祉の拠点として更な
るサービスの充実、発展に努めて参り
ます。

引き続き当法人へのご理解・ご協力
をお願い申し上げますとともに、皆様
のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。
頭の挨拶にさせていただきます。



愛の家 施設長
上野 隆幸



年と計画を盛り上
げていくには相応し
い年であると思いま
す。十分に盛り上
げ、最終年の巳(美)

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、穏やかに新
たな年をお迎えのこととお慶び申し上
げます。

日頃は愛の家施設運営にあたり、多
大なご支援ご協力をいただき大変感謝
しています。

昨年は、ようやくコロナ禍も収まり
愛の家でも様々なイベントを開催する
ことができました。その際には多くの
方々のご協力を頂きました。この場を
借り改めてお礼申し上げます。

私事ですが、本年度施設長に就任し
3年目となります。まだまだ未熟であ
り右往左往する日々も多々あります
が、昨年から中期3か年計画が新たに
スタートしました。中期計画を3部構
成のストーリーと例えるなら、1年目
は「序」であり中期計画導入・問題設定
の年。2年目は「破」であり「序」からス
ピード感をもって展開・転換していく
年。そして最終3年目は「急」と中期計
画を「一気に締めくくる年となります。
今年2年目の「破」、干支も辰(龍)

年に繋げて行きたいと考えます。
さて愛の家では、これまで職任分離の
観点から作業棟建設に向け様々な取組
みを行ってきました。残念ながら助成金
を活用することはできませんでした
が、いよいよ本年は作業棟建設着工に
向けての取組みを行っていきます。その
ためにクリアしなければならぬ課題
は多々ありますが、これ乗り越え作
業棟が完成すれば愛の家にとっても大
きな転換期となると考えます。また同
時に「未来の愛の家」の一步となること
と思えます。今後はどの業界において
も深刻な人手不足による人材確保・定
着・育成等への課題がありますが、愛
の家では新たに建設する作業棟を夢や
希望のシンボルとして、日々支援や
目の前にある課題をつひとつクリアし
ていきながらどこよりも明るく、楽し
い魅力ある施設となるよう職員みんな
で作り上げていきたいと思えます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き
素晴らしい年となりますことを心から
祈念申し上げます、新年のご挨拶といたし
ます。



あいハート須磨 施設長
高岡 順二



全国老人福祉施設協議会の経営状況調査では、特別養護老人ホームにおける2022年度平均収支差率（利益率）はマイナス2.8%、約6割強の施設が赤字で、補助金を含めても約半数の施設が赤字経営との結果が出ています。コロナ感染症の影響に加え、物価高や光熱費の上昇などによるコスト増ものしかかり、非常に厳しい施設運営を強いられている状況です。

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が第五類感染症に変更されたことで、あらゆる場面で平常が戻りつつある年でした。施設でもその影響が少なくなっただけから、感染防止対策をしながらご家族をお招きして夏まつりやクリスマス会を開催することが出来ました。ご入居者のご家族と一緒に楽しいひと時を過ごされたことは非常に喜ばしく、皆様の笑顔を見て改めて家族の大切さを感じました。

本年も大きな波が無く穏やかな一年になることを期待したいですが、一方で我々にとりまして大きなポイントとなる介護報酬が改定される年となりま

す。ご承知の通り介護報酬は三年毎に見直しされますが、今年が介護・医療・障がいを含めたトリプル改定となり、その影響範囲や重要性が増すことからいつもよりも注目されています。

均収支差率（利益率）はマイナス2.8%、約6割強の施設が赤字で、補助金を含めても約半数の施設が赤字経営との結果が出ています。コロナ感染症の影響に加え、物価高や光熱費の上昇などによるコスト増ものしかかり、非常に厳しい施設運営を強いられている状況です。今回はこれらを踏まえて内容が議論されるとは思いますが、結果はどうか決定された内容で運営していかねればならないのが実情です。向こう三年間、その報酬率は変わりませんで、まずはスタートにあたる2024年度の運営に注力したいと思っています。

又、施設環境の面では、昨年12月に簡易陰圧装置や各居室入口への自動手指消毒器を設置したところですが、3月末までには脱衣室に天井走行リフトを設置する計画です。ご利用者にとりましても安心・安楽な生活を送ることが出来ますよう、今年も住環境の整備を進めて参りたいと考えています。

結びになりますが、本年が皆様にとって幸多き年となりますことを心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



あいハート離宮前 施設長
古崎 徹



排泄に係るサービスの他に、お掃除やシート交換、お洗濯、衣替え、服薬管理に加え、受診の送迎と

新年あけましておめでとうございます。あいハート離宮前は、お蔭様をもちまして昨年5月に開設10周年を迎えました。これも偏に皆様のご支援の賜物であり心より感謝申し上げます。

さて、全世界を震撼させた新型コロナウイルスが2類相当から5類に変更されて最初の春を迎えますが、私たちは2024年を復興の年と位置付けまして、コロナ禍の3年間に失われたものの回復と更なる飛躍を目指してまいります。

以前は最大15あったクラブ活動のうち、コロナ禍の間に講師の先生やボランティア様が活動を廃止しておられるなど再開の目途が立たないものが多いこともございます。

外出や外食を伴う行事はことごとく中止となり、夏祭りやクリスマス会などの行事もご家族様をお招きすることが叶わないばかりか、フロア別に密を避けて開催する小規模なものになりました。

有料老人ホームでは、お食事や入浴、

クラブやサークルでは、書道や陶芸、小物作りなど再開をしている活動がある一方で、講師の先生が活動を休止しているものについては別のメニューに置き換えることも視野に充実を目指しているところです。

また、昨年の10月と11月には約3年ぶりの本格的な外出ツアーとなる須磨離宮公園へ秋のバラ園の散策やショッピングモールへの買い物外出を再開するなど、まだ手探りではありますが、当たり前の日常を取り戻すべく努力をしております。

2024年もより多くのご入居者様の笑顔が拝見できますように、職員が一丸となりまして精励働いたしますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



愛の家

きぼう

◆ 部門長 川崎 明美

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、平素から当施設の運営並びに諸活動にご理解ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年5月、新型コロナウイルス感染症がら類に引き下げられました。3年あまり、不自由な生活を強いられました。私達児童部は、子ども達の日常を取り戻すことに大変重みを感じながら、子ども達一人ひとりに寄り添い、アセスメントや記録をもとに関係機関と連携ある支援を継続して行いました。何より、子ども達の「最善の利益のため」に取り組んだ姿勢が法人内でも評価され、法人内事例発表会にて最優秀賞を受賞することができました。

子ども達は多くの大人に見守られなが



ら頑張っています。私達支援者は、子ども達の声をよりしっかりと受け止め、子ども達の思いや願い、夢と共に邁進してまいりますと思います。

今年辰年です。辰は干支の中で唯架空の動物ですが、縁起の良い生き物として神社や仏閣の絵としてもよく描かれています。龍の象徴する「力強さ」は新たな始まりの年として期待が膨らみます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

かがやき

◆ 部門長 山本 裕之

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新しい年をお迎えのことお慶び申し上げます。旧年中は施設運営に当たり、多大なご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この場をお借りして事業活動のひとつにあたる地域移行支援の現状と取組み内容について、紹介させていただきます。施設を返所された方については、直近2年間を振り返ると2021年度は0名、2022年度は2名、2023年度は12月末現在、0名となっています。今年度は強度行動障害の利用者さん2名を主体に、個別支援を進めてまいりました。具体的には、①関係機関等との定期カンファレンスの実施 ②他事業所の見学・体験利用にむけての調整 ③QOL向上のための環境調整や活動提供などに取り組んでまいりました。移行実績へは残念ながら結びついていませんが、活動をおし利用者さんの適



応行動(自身でできることなど)が増えてきたこと、職員の支障力やマインドは確実に向上していることを実感しています。

今年はずべての利用者さん、支援者が自信と誇りを持ち、希望と輝きに満ちた1年になるよう取組みを更に推進していく所存です。

結びに、本年が皆様にとって幸多き年となりますように心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

工房みさき

◆ 副施設長 渡會 幸喜

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、国会でも話題となりましたが、慢性的な人材不足と公的価格で規定されている医療・介護・障害分野では、賃上



げが進んでいない現状です。社会福祉法人からは、人材が確保できないという悲痛な声が多数聞こえてくるなか、今後も、厳しい状況が想定されています。

そういった環境下ではございますが、工房みさきでは人員配置体制を整え、課題としていた利用者定員の充足(満床)を4月に達成することができました。職員の営業努力もあり生活介護事業については定員(満床)プラス1名での運営を実施しています。

また、経営の安定化では、稼働率につきましても(就労継続支援B型・生活介護)事業は共に90%以上の高い実績数値で推移しています。

最後に、今年の大きなプロジェクトは、愛の家新作業棟の建築着工でございます。物価高騰や人材不足等の不安要素はありますが、今だからこそ、働きがいがあり、夢のある職場が求められていると感じております。本年もどうぞご指導のほどをお願い申し上げます。

グループホームみさき

◆主任 山口 真吾

新年あけましておめでとーごいいます。
2023年を振り返ってみますと、ワールドベースボールクラシック(WBC)で侍ジャパンが世界一を達成し、阪神タイガースが18年ぶりにセ・リーグ優勝、38年ぶりに日本を達成、大リーグの大谷翔平選手がMVPに輝くなど、特に野球で盛り上がった1年ではなかったでしょうか。またここ数年、生活に大きな影響をもたらした新型コロナウイルスが感染症法における分類でインフルエンザ等と同じ5類に移行し、かつての日常がほぼ戻ってきたと実感できた1年でもありました。

さて、愛の家においては昨年部門ごとに中期3か年計画を策定しました。その中で、グループホーム部門のサービス提供の項目では、①意思決定支援②支援力の向上③グループホームの修繕④事故防止



等を掲げています。いずれも鋭意取り組みを進めていますが、未着手の部分もありますので、今年はどうぞん前に進めることができよう取り組んでいきたいと思っております。本年もよろしくお願いたします。

みらい

◆リーダー 片岡 正年



2024年新年の抱負

新年あけましておめでとーごいいます。平素はひとかたならぬご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

相談支援センター愛の家「みらい」はこの厳しい社会状況ですが、苦境に負けずに頑張っていく所存です。抱負は変わらず、「利用者ファースト」を合言葉にみらい利用者の夢が実現できるよつに一緒に考えていきます。です。私たち相談員の仕事は常に予測不能で日々様々な問題が発生します。そのため常に冷静に対応し、迅速に行動していかなければいけ

ません。何事にも身体が基本なので本年はより一層目の健康に気を付けていきたいと思っております。皆様も身体には重々お気をつけてお過ごしください。

さて今年甲辰。甲には草木の成長を表す意味があるようで、昨年まで努力してきたことが実を結んで成就する年になるようです。2024年の年末には充実した年だったと言える一年にしていきたいと思っております。そして利用者さんが幸せな気持ちで生活できることをサポートしていきますので、皆様今後ともよろしくお願いたします。

あいハート須磨

特養

◆部門長 原田 浩樹

新年あけましておめでとーごいいます。旧年中は施設運営にご理解とご協力頂き誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願申し上げます。

昨年はオリックスのリーグ3連覇、阪神タイガースの38年ぶりの日本一やウィッセル神戸のリーグ初優勝と関西のスポートが注目された年となり、また、岡田監督の「ARIE」が流行語大賞となり話題になりました。監督は選手にプレッシャーを与えないためにあえて優勝という言葉を使用せずに「アレ」と表現したと言われていましたが、チームのスローガンとしては「Aim: Respect: Empower」の頭文字を3文字で表現したものになります。その意味は「個人・チームとして

明確な目標に向かって、お互いに敬いの気持ちを持って取り組み、個々がさらにパワーアップすることで最高の結果を残していく」という思いが込められていたそうです。

施設においても部門実行計画を執行していく中で、監督(管理者)の采配(適材適所の人員の配置、業務改善、プロジェクトの推進、若手の育成(新人職員の育成)、個々のパワーアップ(個人目標の取り組み、スキルアップ)等やるべきことはたくさんあります。組織が目標を達成するために「ARIE」は、仕事をやる上での職員一人一人の心構えとして必要なことだと感じました。

介護業界では人手不足が深刻で、今後ますます人材確保が困難と予測されます。今いる職員が安心して働けるように健全な施設運営を継続し、「一人一人が「アレ」に向かって「一致団結」して取り組み、さらに皆様に選ばれる施設になるのではないかと思います。





デイサービス

◆今年こそ収支回復

◆部門長 仙波 剛

新年明けましておめでとございます。昨年は新型コロナウイルスが5類に移行されたこともあり、蔓延した時期の大幅な利用者減からの回復に向けて積極的に取り組んで参りました。少しずつですが回復の兆しが見え、利用稼働率の低迷からもようやく抜け出すことができ90%に手が届く所までに戻ってきました。しかしながら、完全な回復にはまだまだ遠い道のり。今年も介護報酬改定もあり、現時点では明確にはなっていないですが、単価の見直しを想定した予算編成を検討し実行に移していきます。併せて、収支改善（黒字化）に向けた取り組みとして



職員配置の見直し（適正な職員配置）や業務の見直し（業務改善）を行うとともに、ボランティア等の協力を生かして業務運営の体制確立にも取り組んで参ります。これらの取り組みを二つ二つ形にして、デイサービス部門「黒字化」を実現できる年にします。

居宅介護支援事務所

◆部門長 丸島 幸子

何事にも前向きに「ポジティブシンキング」で取り組みたいと思います。

◆主任 菅家 妙子

「これだからこれまでを決める」悔いのない年にしたいと思います。

◆余田 恵

健康に気を付けて、「夢と魔法の王国」を目標に仕事に励みたいと思います。

◆橋本 裕弥

仕事・プライベートともに新たなことにチャレンジし、インプットできるように励みたいです。

◆今城 ゆり

茶葉で入れた紅茶を楽しんだり、夕陽の沈む海をゆっくり眺めたり、スローライフを楽しみたいです。

◆浪江 知永子

楽しく仕事ができれば続けられるように、体だけでなく心のメンテナンスに努め今年も病欠なしを目指します。

◆毛利 芽衣

関わってくださる全ての方に感謝しながら、日々の仕事に落ち着いて取り組んでいきたいと思えます。

◆西中 志保
日々を楽しみを持ち、二つ二つ寧に取り組んでいきたいと思えます。

◆松井 栄子
健康管理を怠らず、今年も目標を達成するため必要な課題をこつこつと地道に継続する。継続は力なり。

◆稲田 仁美
体のケアをしっかりと、元気に毎日過ごせすように。視野を広げて、新たな世界も見てみたいです。



あんしんすこやかセンター

◆部門長 柏木 照子

信頼されるセンターを目指し、笑顔と感謝、一期一会・繋がり大切に、しなやかにいきます。

◆日和佐 祐樹

いつも心をニュートラルに保ち、自然体で過ごしたいです。



◆大道 雅子
健康第一で、楽しみを持ちながら、日々感謝を忘れず頑張りたいと思えます。

◆齋藤 知見

頑張り過ぎず、挑戦できることには挑めるように体調管理に気をつけていきたいと思えます。

◆立浪 雅美

変化を受け入れ、楽しみながら、心身共に健康に、笑顔で過ごしていきたいです。

◆藤井 幸代

質のよい生活、仕事ができるように、メリハリをつけて笑顔多い一年にしたいです。

◆篠崎 美菜子

あいハート須磨でのラジオ体操とお風呂後のストレッチを続け、身体の柔軟性アップと肩こり解消を目指します。

◆平池 方子

愛と平和と笑いで本年も笑顔で楽しく過ごします。

◆井上 久美子
今年はゾンビダンスをマスターします。

◆森元 淳子
免疫アップ生活は継続していきます。自分の心とからだに耳を傾けつつ、対話を大切にします。

厨房

◆部門長・管理栄養士 澤田 州子



新年あけましておめでとうございます。昨年は長く続いた自粛生活が少し緩和され、ささやかではありますが、ご家族をお招きしての夏祭り・クリスマス会を開催することができました。

今年も安全に配慮しながらではありますが、季節の献立や行事食を実施していきたいと思っております。

厨房職員一同、皆様が健康で楽しい毎日を送ることができるよう、美味しく栄養のある食事提供に努めます。

本年もよろしくお願いたします。

脳梗塞リハビリテーション 神戸須磨

◆センター長 伊藤 正憲

新年明けましておめでとうございます。言語リハビリを新たにスタートできた昨年、失語症や構音障害に悩まれているご利用者が、改善の糸口を見いだせたことには大きな価値がありました。開設から五年目を迎える今年は、年明け一月からペテラノ理学療法士がインストラクターを担う「脳卒中ヨガ」をマンツーマンで開始します。さらなるオプションメニューの導入は、脳リハの強みのひとつとなるでしょう。

脳リハが最も誇れることは何か。それは高いリハ技術力、そして信頼獲得に繋がる対応力です。これは契約件数にも直結する要素です。この要素をさらに盤石なものにするために、「私だからできること」「私にしかできないこと」にもこだわりを持ったサービスを提供します。そして、唯無二の脳卒中リハビリ施設になることを目指します。



辰年は十二支の中で唯一、想像上の生き物「竜」に例えられています。竜の水を得るが如し、勢いよく天に昇る竜にあやかると、脳リハが誇る強みにより一層の勢いを得ていきたいと思えます。

あいハート離宮前

◆主任補佐 東野 美果



新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。昨年5月に開設10周年を迎えました。心新たに、「感動を生む介護サービス」が提供できるよう、職員一同頑張っております。

新型コロナウイルス感染症の影響で、三年少し、やむを得ず行事やサークル活動を縮小してきましたが、5類に移行になった

のを機に少しずつ再開しているところで。先日の外出ツアーでは3パターンの行先から選択していただき、少人数で離宮公園や買い物、ペット鑑賞を楽しんでいただきました。大きなスクリーンでの映画鑑賞会、陶芸サークルなど、どれも大変好評でした。これからもご入居者様の笑顔をひきだす行事、活動をどんどん企画して提供していきたいと思えます。

また生活面においては、数年前から導入しているノーリフトケアをより推進し定着させ、安心・安全で良質な介助が提供できるように、職員全員で取り組みます。

ご入居者様、あらゆる部署の職員にとっても優しい環境づくりを目指していきます。



ご支援を
くださった
方々

11月

寄付金

NTT労働組合退職者の会
大阪支部協議会 様

平田 勝 様

正木 恵子 様

美谷 恵津子 様

宮本 泰子 様

(計5件)

あいハート離宮前 施設長 古崎 徹

この仕事に長く携わっておりますと、もう少し早くご入居を決断しておられたら…と思わざるを得ないシーンに直面し、心を痛めることがあります。

毎日荷物をまとめて「お世話になりました。」「退院します。」と丁寧に頭を下げて家に帰ろうとされる方や、中には半ば強引に出て行こうとされる方がおられます。



また、四六時中館内を巡回され、他のご入居者様の居室の扉を開けて回られる方も…これらは、どこの高齢者施設でも目にする決して珍しくない光景です。また、このような行動はしばらく続くことが多く、時に数ヶ月に及ぶこともあります。

さて、今回お伝えしますのは、これらの行動への対応が大変だとか、他のご入居者様に迷惑が及ぶというお話ではありません。我々はプロとして日々寄り添いながらお世話をさせていただくのですが、ご本人様が混乱して苦しまれるケースがあるということも視野に、ホームを探し始めるタイミングや入居を決断するタイミングをご判断いただければというお話です。

いくつになっても自宅で…ぎりぎりまで本人の意思を尊重したい…というお気持ちはよく分かります。私もきっとそうです。また、あらゆる統計もそれを示しています。

直近の内閣府の調査によりますと、終末期が迫った時に最後を迎えたい場所は、自宅が54.6%でトップ、次いで病院などの医療施設が26.4%でした。これは日本財団による調査でも同様の傾向が見て取れます。

一方で現実を目を向けますと、介護サービスの受給者のうち要介護5の施設サービスの利用割合は約46%、要介護4では約42%で、いずれも地域密着サービスの高齢者施設は含みませんので、恐らくは5割以上が

介護施設をご利用になられているのが実情です。

人は自分の居場所が分からないと、そしてそこが安心できる場所だと確信できないと不安になるものです。眠っている間に無人島など知らない土地に連れていかれたと想像してみてください。目が覚めてからは、そこがどこなのか確認するためにウロウロするのではないのでしょうか。このような行動は認知症による場所の見当識障害と同一のものではありませんが、居室の扉を開けて覗いて回るのは、そういった要素を含む当然の行動だと思っております。

認知症は環境の変化により進行する可能性があるとされていますから、余裕をもってご本人様がホームに入居したと認識できるタイミングでご入居されるのが望ましいと私は考えています。

他にも余裕を持ってホーム探しをするメリットはあります。一般に人気の高いホームは入居率が高いものです。食事や服薬、ゴミ出し等の問題が顕在化するなど限界に達してからホームを探し始めると選択の幅が空室のあるホームに限定されてしまいます。

それが行列のできるような店のランチなら、今回はとりあえず別のお店でよいのかもしれませんが、ここぞというホームには1年以上待ってでも入居するだけの余裕をもった準備をお奨めしたいと思います。

最後に、シリーズでお伝えしてまいりました「有料老人ホームを選ぶ際のチェックポイント」ですが、連載をお読みくださったお客様から入居のご相談やご質問を賜わるなど、思わぬ反響に驚くことがございました。拙い連載をお読みくださった皆様には改めて感謝申し上げますとともに、皆様が有料老人ホームを選ぶ際の一助になればと願っております。



「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等のようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 …………… 072-494-0123
- あいハート須磨 ……… 078-737-2525
- あいハート離宮前 …… 078-731-2130
- 法人本部 …………… 06-6458-5723

【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団
〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73
TEL 06-6458-5723

Website <https://www.zendentu-kinki.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>
E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】

理事長 橋本 寿樹

